

学校教育目標	自ら学び 豊かな心を持ち たくましく行動できる子どもの育成
育成を目指す資質・能力	・自分の考えを持ち、発言できる ・なかまの考えを大切に、伝え合うことができる ・探究心を持って、学びを広げ深めることができる

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 5年生は、国語は領域別正答率を見ると、「我が国の言語文化に関する事項」のみ県平均を下回っている。また、「文章を書く」分野の正答率が低い。算数は「面積」分野の正答率が低い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 5年生は平均正答率は全国・県平均より高いが、算数が好きかの問いに対して、好きと答えた児童の割合が全国・県平均に比べて低い。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 1学期の単元末テストの結果では、「知識・技能」の観点で国語84.9点、算数88.0点、「思考・判断・表現」の観点で国語87.3点、算数79.7点となっており、全体としておおむね定着できているといえるが、低位の児童の底上げが必要である。また1学期の児童アンケートでは「自分の考え、まとめ、振り返りを書くことができた」が85%、「友だちに自分の考えを伝えることができた」が81%が「とてもそう思う」「そう思う」と答えている。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 授業や家庭学習で練習問題をさせながら、基礎学力の定着を図ることはできていると言える。振り返りについては、よりねらいに対応した振り返りをさせ、理解や考えを深められるようなものにしていく必要がある。自分の思いや考えを伝え合う授業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1学期前半は話し合い活動をできなかったが、6月以降少しずつ取組を進めていっている。また、互見授業についても、コロナの関係で見通しがもてずに提案できなかった。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 朝活動では、毎週月曜日の「はなまるタイム」の他、水曜日は「学級タイム」として学習に関わる取組を、木曜日の「読書タイム」での朝読書を行っている。学校研究の中で、「めあて・課題・まとめ・振り返り」のある授業や「聞く・伝え合う」活動を取り入れた授業を実践している。また教え合いの場や机間指導の充実を図っている。家庭との連携や学級の雰囲気づくりなど、今後も工夫して進めていく必要がある。	

学力に関する達成指標

- 国語、算数の単元末テストにおいて「知識・技能」の観点、80点以上の児童が全クラス80%以上
- 国語、算数の単元末テストの「思考・判断・表現」の観点、60点以上の児童が全クラス80%以上

